

知床の樹木 イチイ

【概要】

イチイは常緑針葉樹で別名をアララギ、北海道ではオンコとも呼ばれています。

北海道から九州にかけて山地に自生し、庭木としても一般的で沖縄を除いた日本全国で見ることが出来ますので身近な木でもあります。知床半島でも多く生育しており、広葉樹が葉を落とした冬に、常緑で赤茶けた樹皮の木があれば、それがイチイです。

【特徴】

樹高は10～15m、幹は直立し、樹皮は赤褐色で浅く縦に裂けています。雌株と雄株が違う雌雄異株で、雌花は4月ごろ咲き、初秋に赤い実を付けます。果肉は甘くて食べることが出来ますが、中の種子には毒素が含まれているので注意が必要です。



イチイの実

成長の遅い木で、1年に1ミリしか太らないとの話もあります。



【材質】

木材としては年輪の幅が狭く緻密で狂いが生じにくいので、床柱や工芸品、机の天板、天井板、鉛筆材として用いられます。

昔、斜里ではイチイ材を使った鉛筆生産が盛んで、この地域からの出荷が全国の生産量の8割を占めていた時期もあったそうです。

【その他】

名前の由来は、昔の高官「正一位」がもつ笏（聖徳太子が持っている木の板です）がこの木から作られていたことによるとの説があります。



イチイ京都・奈良へ

エゾシカの食害をうけやすい木でもあり、知床にある「イチイ遺伝資源保存林」でもかなりの被害が確認されています。成長が遅い木だけに、長期的な保護措置が求められています。

寺社の修復に欠かせない木でもあり、斜里のイチイが法隆寺等の京都・奈良の寺院に献木されたこともあります。



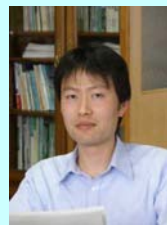
食害跡

人の動き



【企画官】

札幌から来ました岩本です。ここ知床の森には原生的な森林や貴重な野生生物など優れた自然環境・魅力があふれており、これらを広く皆様にお伝えできるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願いします。



4月1日付けで、企画官の瀬尾義博が網走南部森林管理署へ、総務係長の伊藤順一が網走中部森林管理署へ、緑化第一係長の玉川晴幸が網走南部森林管理署美幌森林事務所へ異動しました。長い間お疲れ様でした。

代わって新たに3名が着任しました。なお、緑化第一係長に清水亜広（前緑化第二係長）が内部異動しています。

【総務係長】

4月からお世話になります。東京都八王子市から来ました須田茂治です。初めての土地で勤務・生活するのに不安なこともあります。精一杯努力したいと思いますので、よろしくお願いします。



【緑化第二係長】

島根県奥出雲町から来ました。戸口田夕子です。出身は鹿児島市です。知床をいっぱい体験し、学び、楽しみ、「知床なんでも博士」になれるように頑張ります！よろしくお願いします。



知床の森から

平成19年5月発行 第107号



(写真：エゾヤマザクラ)

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp>



知床は今

「4月」から連想されるイメージ。多くの人にとっては、「桜が咲いて春が到来する時期」という印象ではないかと思えます。そんななかで北海道、特に知床の「4月」は一般的な春のイメージからはほど遠く、山にはまだ雪が残っていたり、道路から見える風景も枯れ草色だったり華やかな雰囲気はまだまだ感じられません。知床で春を感じさせる出来事といえば、人によって様々でしょう。真っ白く雪化粧していた知床連山に雪融けで山肌が露出した黒い尾根筋を発見した時だったり、冬期閉鎖の道路が開通することだったり、はたまたオホーツク海で採れた毛ガニが店先に並び始めることだったり…。



バイケイソウの新芽

雪面に残るヒグマの足跡



森の中で雪面に残った（冬眠明けの）ヒグマの足跡を見つかることも春を感じさせる風物詩の一つです。まあ、実際見つけた時は、「すぐ近くにいるのでは！」という緊張感からそそくさとその場を離れるので、現場でそんな季節の移り変わりを感じる心の余裕はなかなかありません。

そんな知床でも5月が近づくとつれ花々はその姿を見せてくれるようになってきました。キタミフクジュソウの黄色やエゾエンゴサクの青色に加え、バイケイソウの芽吹きも光沢ある緑色を見せてくれ、林床に彩りを与えてくれています。あともう少しすれば、山がまるで眠りから覚めたかのように一気に新緑の時期を迎えることでしょう。

さて、4月といえば、役所にとっては年度替わりの時期でもあります。予算も新年度に切り替わり、異動でも大きく動きます。私達知床森林センターもその例に漏れず、職員6名中3名が入れ替わるという大異動がありました（最終面参照）。また、平成19年の新規事業では『「知床自然の森づくり」協働モデル事業』として、国民参加の森づくりの更なる活性化を図るための取組も始まります。センター創設20周年を迎える今年度、知床森林センターにとっても節目の年を迎えることになりました。新たな体制での新たな取り組み。これからの知床森林センターにご注目下さい！



キタミフクジュソウ

19年度のイベントの予定が決まりました

～みなさんの参加をお待ちしています～

今年度も皆さんを『世界自然遺産・知床』の森へご案内いたします。四季折々の知床の大自然に触れてみませんか。そこでは新たな発見や出会いが待っていることでしょう。

なお、詳細につきましてはイベント実施日の1ヶ月前頃から、知床森林センターのホームページに掲載する他、新聞等を通じてお知らせします。

第67回森とのふれあい

「世界自然遺産・知床の森で幻の沼を発見しよう」

実施予定日：6月17日(日)/場所：知床森林センター、自然観察教育林/定員：23名

新緑の時期を迎えた知床で、炭焼き体験と森林散策を行います。午前中は、森林センターの敷地内にある特製ドラム缶型簡易炭窯で炭づくりを、午後からは、幻の沼と呼ばれるボンホロ沼を散策します。雪融け水でできたこの沼は、夏までには干上がって、草原に変わってしまうため、幻の沼と呼ばれています。



ボンホロ沼



羅臼湖(三の沼)

第83・84回森林レクリエーションin知床

「可憐な花を求めて神秘の羅臼湖に行こう」

実施予定日：7月19日(木)・26日(木)/場所：羅臼湖/定員：23名

遺産区域内にある羅臼湖まで森林を散策しながら、雄大な知床の自然とのふれあいを楽しみます。途中、5つの沼を巡りますが、天候が良ければ三の沼から、羅臼岳が映り込む「逆さ羅臼」を見ることができます。

第68回森とのふれあい

「夏休み企画・森の恵みとふれあう体験教室」

実施予定日：8月9日(木)/場所：知床森林センター/定員：30名

夏休み中の子どもたちにもっと森林と触れ合ってもらうための企画です。葉っぱ当てクイズや種模型飛ばし、火興し体験等、夏休みの自由研究の課題に最適な企画をご用意します。

(イベントの内容は変更になることがあります)



樹病を患った樹木 →



第85回森林レクリエーションin知床

「知床の森を

『木のお医者さん』と一緒に歩いてみよう！」

実施予定日：9月9日(日)/場所：オシンコシン周辺の国有林/定員：23名

樹木も人間同様病気にかかります。そんな病気を治す木のお医者さん「樹木医」と一緒に森を歩くこの企画。センター庁舎で座学を行ったあと、現地へ向かいます。樹病を通じて森林生態について考えてみましょう。



第86回森林レクリエーションin知床

「知床の大木に登って野鳥の気分を体験しよう！」

実施予定日：10月14日(日)/場所：知床自然観察教育林・国設知床野営場/定員：23名

ロープ等専用の道具を使い、木登りをし、野鳥の視点で木や森林、自然との一体感を味わうイベントです。資格を持ったスタッフの指導の下で行うので、子供や体力に自信のない方でも安心してご参加頂けます。併せて知床の森林散策も行います。

第69回森とのふれあい

「森の恵みで草木染め」

実施予定日：11月3日(土)/場所：知床森林センター/定員：30名

野や山にある草や樹木などを使った草木染めの体験です。自然の素材を使って、自分オリジナルの知床染めを作ってみてはいかがでしょうか？



第70回森とのふれあい

「森の恵みのクリスマスリース作り」

実施予定日：11月18日(日)/場所：知床森林センター/定員：30名

トドマツの枝や松ぼっくりなど自然の素材を使って、直径40cm近いクリスマスリースを手作りします。マツの香り漂うリースでお家を豪華に飾り付けましょう。

第71回森とのふれあい

「冬休み企画・親子ネイチャークラフト体験」

実施予定日：平成20年1月12日(土)/場所：知床森林センター/定員：30名

小枝や木の実、落ち葉などを利用したネイチャークラフト体験です。森の恵みを使って、アイデア溢れる自分だけの芸術作品を作ってみませんか。



昨年度の様子

第87回森林レクリエーションin知床

「冬ならではの！静寂の知床の森を

歩くスキーで散策しよう」

実施予定日：2月14日(木)/場所：オシンコシン周辺の国有林/定員：23名

オシンコシンの滝の上にある、今は使われていない旧道周辺の原始的な森林を、歩くスキーで散策します。森林が冬を耐える姿や、野生生物の痕跡等の観察を行います。

第88回森林レクリエーションin知床

「早春の知床！エゾシカ集うフレペの森を散策しよう」

実施予定日：3月9日(日)/場所：フレペの滝周辺/定員：23名

知床八景の一つ、断崖のフレペの滝から続く海岸林を歩くスキーで散策します。ヒグマの爪痕や、クマガラの食痕、エゾシカの群れなど、野生生物の息吹を感じて頂きます。



フレペの滝



バスのマークのあるイベントは、往復とも北見より貸し切りバスを利用します。途中、美幌・網走での乗り降りも可能です。